

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572306215		
法人名	有限会社ヘルスケア悠愛		
事業所名	グループホームゆうあい		
所在地	秋田県男鹿市払戸字渡部114-3		
自己評価作成日	平成26年5月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成26年6月9日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは創業者が自らの福祉理念を地域に還元することを目的として開設された。静かな住宅地にあり、民家を改修した建物は一見高齢者ホームとはわからないくらいで近所になじんでいる。「だれでも、いつでも、気軽に、みんなと共に、助けあい、心豊かに、安心して生活できる」ホームを目指して、職員が皆努力している。地域住民との交流の取り組みとして、週一回のカラオケ大会の開催や、地域への行事・祭典の参加などを行っている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、閑静な住宅地の中にある民家改修型グループホームであり、創業者(事業所代表の夫)の理念に基づいた施設運営がなされている。また、事業所代表をはじめとする全職員が地域とのつながりを大切にし、地域との相互関係のもとに事業所が成り立っている事を認識している。支援の取り組みについては、事業所事務長が率先して人材育成に取り組んでおり、スタッフ同士の連携がスムーズに行われ、利用者個々の人格を尊重し、尊厳を大切にされた支援を実践している。職員の能力開発及び介護技術向上については、事業所内研修の他、外部研修にも参加し、全職員で介護サービスのレベルアップに取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は掲げられているが、個々の職員への浸透が十分ではない。今後、理念の方向性は一緒でもっと平易な言葉に改めることを検討している。	理念は事業所で働く職員一人ひとりが理解し、日々の業務において理念を具体化していくことを意識した取り組みが必要である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方を招いて、およそ週一回のカラオケ大会を開催している。祭典や清掃活動、ナマハゲ等の地域の行事に参加している。児童や生徒の社会科見学の受け入れを行っている。	毎週土曜日の午後から、地域住民と利用者がカラオケを通じた交流が図られている。また、その際、地域住民から認知症に関する相談等があり、地域で必要とされる活動や役割を積極的に担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域貢献としては、十分ではない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	諸事情により、外部からの人員を招いた運営推進会議は行われていない。現在6月開催を目指して調整中である。	事業所の都合により、定期的な運営推進会議が開催されていない。今後、定期的に開催するため、市の福祉担当に相談している。	運営推進会議は、事業所の取り組み内容や具体的な改善課題を話し合い、サービスの質の向上を図る事を目的としており、今後は定期的に開催されることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市内のグループホームと合同で市担当者と懇談している。本年度の懇談は計画中。相談のため市役所庁舎を不定期に訪問している。今後は運営推進会議に招いて、市担当者との関係を築きたい。	市の福祉担当や消防担当、その他関係者との連携強化を図り、事業所の実情やサービス内容を伝え、適宜アドバイスを受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わない。ベッドのサイドレールは適切に使用している。日中の玄関の施錠は基本的にしない、やむなく安全のために施錠するときは記録に残す等全職員に周知されている。	全ての職員が身体拘束の内容とその弊害を認識し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。また、不定期に事業所内研修を実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止に努めている。高齢者虐待防止関連法についての学習の機会には十分ではない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者と、それを補佐する者は、制度の理解と活用に努めている。職員全体の学習の機会は十分ではないが、事業所全体では活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者・ご家族の意見の反映は、日々の業務の中で、受けとめて反映しているが、定型的な外部者へ表せる機会の設置は十分ではない。	利用者や家族からの意見については、事業所としての検討を行い、速やかな対応をしている。苦情受付に関しては受付箱等がない。	利用者や家族からの意見は事業所にとって大切な宝になり得るため、アンケート調査や意見箱を設置する等の取り組みを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は、日々の業務の中で、受けとめて反映しているが、定型的な機会の設置は十分ではない。	事業所の代表者や事務長が職員からの意見や情報をしっかりと受け止め、運営に反映させている。また、職員の資格取得についても協力的である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者と会社の人事担当者が、経営状況・規模の範囲内で、職場環境・条件の整備に努めている。とくに子育て休暇、介護休暇の取得や有給の取得推進、時間外勤務をなるべくしない環境づくりをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事担当者が、職員のシフト、人員基準への対応において可能な範囲内で、研修を受ける機会等を設けている。資格試験に向けて休暇や出張扱いを融通している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内と周辺市町村エリアのグループホーム連絡会に入会しており、合同の交流会や勉強会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期対応は、主に計画作成担当者が中心になって、ご本人の安心を確保するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期対応は、主に管理者が中心になって、ご家族との信頼関係を確保するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	十分に留意している。共に暮らす関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を深めるよう十分に留意している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅一時帰宅への送迎、付き添い、ご本人の希望される商店での買い物、希望される医療機関への通院等を支援して、十分に留意している。	利用者がこれまで培ってきた人間関係やつながりを全職員が意識し、継続した関係が途切れないように支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	閉ざされた個室でなく交流できるホームにすることに留意して孤立を防いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	あまり必要とされたことがなく、取組みの実績がない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントを利用。個々のノートは毎日記入して、支援に生かすようにしている。	全職員が利用者一人ひとりの希望や思いを日常生活の中で汲み取り、支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメントを利用。本人との会話、家族と面談などの機会に、常に把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式のアセスメントを利用。本人との会話、家族と面談などの機会に、常に把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本位の支援が行なわれている。チームでの介護計画作成に、十分でない点がある。	介護計画は介護計画作成担当者が中心となり、設定期間ごとの見直しはもとより、利用者の状況の変化や要望に応じ対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は十分にできている。職員の共有や介護計画の見直しにつなげる流れは、十分でない点がある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	十分に留意している。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者・ご家族が希望される場合、かかりつけ医、かかりつけ薬局の利用を支援している。	本人及び家族が希望するかかりつけ医に継続的な医療を受けることができるよう連携強化を図っている。また、通院後は家族に通院結果を報告し情報の共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護職はいないが、訪問看護職等と適切に協働をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	十分に留意している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所内で介護職員ができるぎりぎりのところまで支援している。終末期は家族、医療従事者や福祉サービス等と協働するよう留意している。	利用者個々の状態に応じた終末期対応について、事業所としてどれだけ対応できるのかを全職員で話し合い、実践に結び付けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一部の職員は訓練済みであるが、今後も全職員に浸透するよう機会を増やしたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施して、地域住民・消防団との交流も行う。スプリンクラー、火災報知機の設置。非常食の備蓄、発電機の用意をしている。	非常時に備えた備蓄食料や発電機等の資機材を確実に整備している。しかし、非常時、職員が利用者を安全に避難誘導するためのマニュアル等が整備されていない。	非常時、利用者の安全を守るための各種対応マニュアル(火災・地震・停電等)の作成を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとりが利用者の尊厳やプライバシーに配慮しながら支援している。建物が民家改修型でトイレ、更衣所等が優れた設計ではないので、職員が常に気配りしている	事業所代表者及び事務長が徹底した職員教育を実践しており、全職員が利用者に対するきめ細かい配慮をしていることが確認できる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	十分に留意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	十分に留意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	普段の整容は職員が対応し、洋服店、クリーニング店や美容室へ通う支援を行い、十分に留意している。外出が困難なご利用者には、訪問にて整髪などをされる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しめる支援をしている。一緒に準備や食事、片付けをしている。	旬の食材や新鮮な野菜・魚等を取り入れたメニューを工夫しており、利用者からも好評を得ている。また、嚥下障害のある利用者に対しては、その都度利用者の状態に即した食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常に状況の把握に努めて、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員に歯科衛生士経験者がおり、すべての職員で口腔管理に力をいれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	十分に留意している。行動の記録を生かしている。	排泄チェック表を活用し、利用者個々の状態把握を確実にし、さりげない声掛けでトイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分に留意している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	事業所が小規模であり、利用者主体の希望のタイミングで入浴を提供することが職員数からして困難な状況である。現在は曜日を決めて週2回の入浴を提供している。	利用者の心身の状態や気分配慮した入浴を実施している。また、利用者とのコミュニケーションや身体状況観察、意向等の確認等、他のサービスの提供にもつながる貴重な時間としてとらえている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	十分に留意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	十分に留意している。医師や薬剤師とよく相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝の会の司会など役割を考えて任せたりしている。歌や踊りが好きな利用者が多く、歌唱などの楽しみごとが多い。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	300メートル程度離れたところに庭・畑があり土いじりを楽しむことができる。車椅子利用の利用者が増えてきたため、一斉の外出が難しいが、散歩や外食など工夫して行っている。	外出時、車椅子を使用する利用者が増えたことにより、利用者全員での外出が不可能になっているが、利用者個々の要望に応じた外出支援を提供しており、利用者からも好評を得ている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力によって、お金を月極めで渡したり、買い物の際に渡したりして、使えるよう支援している。隣が個人商店なので毎日のように買い物を楽しんでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	十分に留意している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	古い民家を改修したホームで、予算の都合もあり、あらゆる点で十分であるとはいえないが、施設の状況内で、常に努力している。	民家改修型のグループホームであるが、清掃が隅々まで徹底されており、居心地の良い空間づくりがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	小さく狭いホームで、あらゆる点で十分であるとはいえないが、施設の状況内で、常に努力している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	十分に留意している。しかし、使い慣れたものや好みのものの持ち込みに関しては、ご家族の理解を得られず新品の家具が持ち込まれることがある。	利用者や家族と相談し、本人が使い慣れた家具を持ち込み、居心地よく過ごすことができるような工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	十分に留意している。		